

## ビバハウス便り NO.62 社会福祉士・森康彦さんを主任指導員として迎える。

ビバハウス責任者 安達俊子

ようやく待ち焦がれた4月が来た。春一番「れんぎょ」の黄色い小さな花々が目にまぶしい。上湧別の皆さんから講演へのお礼とお送りいただいた、色とりどりのチューリップもいっせいに芽吹きだし、黒川町のマイホームから移植した「雪ノ下」も、名前にふさわしく、長い冬に耐えて、鮮やかな桜色の小花を咲かせ始めてくれた。ところが、例年は雪解け水で水かさも増し、一挙に流れの音も大きくなるはずなのに今年はそれが無い。やはり暖冬の影響なのだろうか？こんな今年の春の訪れとともに、さまざまな形で自己実現を目指す若者たちの願いに、いっそう良く応えられる体制づくりのために、どうしても再度ビバでのスタッフとして迎え入れたいと願っていた森康彦さんが、4月1日から主任指導員として赴任してくれた。それも、1年間の福祉の専門学校で受験資格をとった、「社会福祉士」という国家試験合格証をお土産に持ってきてくれたのだ。

「社会福祉士」という国家資格が正直どれほどのものなのかは、不勉強のためあまり詳しくはこれまで分からなかったが、今回森さんの合格で初めて調べて見て驚いた。専門の大学の4年制課程で受験資格を取った人でも、約4割しか合格できない難関であるという。森さんは、厚生労働省の認定を得ているグループホーム・ビバハウスの勤務期間4年間でカウントされて、1年間だけの座学で受験資格が得られた。それにしても日中は、社会福祉施設で働き、生活費と学費を稼ぎながら、最短距離で目標を達成した克己心は並みのものではない。もともと森さんの将来を考え、「卒業後は最短でも2,3年は他人のご飯を食べて、その後でその気になったらビバに戻ってきて」と、送り出したのに、こちらの都合でご無理をお願いせざるを得ないことになり、申し訳ない気持ちで一杯だ。でもうれしい。

就任してからわずかに数週間しか経ってないのにすでに確実に「森効果」は現れ始めている。これまで、あまりにも共通の広場の整頓が乱れた時などは、「そのままに放置している私物は、没収する」と宣言し、実際にそうやってきたが、森さんは、私たちに、「確かに僕の高校でも違反物は没収ということで、ズボンを取られたこともあったが、ビバは学校でもなくそういうやり方は、ビバにはふさわしくない」といって、ビバのメンバーに適合した、丁寧なやり方を提案してきた。これは、個室の整頓をきちんとしない若者に対する指導のあり方にも共通で、毎週土曜日の掃除の後で、スタッフが個室を点検するという当初の方針を変更し、今後一定の時間の経過を見て、それでも改善が見られない個室だけを点検することにした。自分たちの立場を理解しようとしてくれる森さんの期待にこたえなければとの思いからなのだろうか、若者たちの様子もこのところ、これまでに見られなかった変化が伺われる。4月8日の入学式に三人の北星余市高校生を送り出してからは、果敢な就労への挑戦が始まっている。給食サービスの職場で調理に当たるもの（老健施設よいち、女性、調理師免許取得者）、銀山学園（知的障害者施設）で指導員として調理と生活指導に当たるもの（男性、ホームヘルパー2級資格者）のそれぞれの採用が決定した。